
日本ロシア文学会会報 第 53 号 2024 年 3 月

1. 会長挨拶 2. 2023 年度第 73 回総会報告 3. 10 月・12 月・2 月理事会関連事項 4. 会員異動
5. 新役員・委員 6. その他 7. 事務局からのアナウンス
-

1. 会長挨拶

中村唯史

2022 年 2 月 24 日にロシア軍がウクライナへの侵攻を開始してから 2 年が経過しました。戦争は長期化の様相を呈し、流血と破壊の事態はなお続いています。この地域の言語や文化を対象とする研究者が多く属する日本ロシア文学会は、改めて深い憂慮の念を表明します。

2024 年 2 月末に、駐ロシア日本大使が、中断していたロシアでの文化交流事業を再開する方針を記者会見で示されたとの報道がありました。これは、戦争行為を開始したロシアの政府と軍を文化と学問の立場から批判するとともに、ロシアの権力・体制と一般市民および文学・文化・言語とを同一視するべきではないとの立場を取ってきた本学会として、歓迎すべきことです。思想と表現の自由、そしてその前提としての平和を存立の必要条件とする人文学の研究者にとって、文化的・学術的な対話と交流の持続は不可欠なものです。

昨年度の全国大会は、野中進さんを委員長とする大会組織委員会、開催校の武田昭文さんを委員長とする大会実行委員会ほかのご尽力で、富山大学五福キャンパスにおいて全面対面形式により成功裏に実施することができました。報告は、数としては新型コロナ禍以前の水準にまだ復してはいませんが、質疑応答と併せて極めて充実したものだったと思います。

今年度の全国大会は前田和泉副会長を委員長とする大会組織委員会、開催校の寒河江光徳さんを委員長とする大会実行委員会を中心に、2024 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）の両日、創価大学（東京都八王子市）で開催の予定です。10 月 25 日（金）にはプレシンポジウムも予定されている由です。昨年度に引き続き、直接に顔を合わせて意見や情報の交換をおこなうことには、やはりオンライン形式とはまた別の意義があります。ワークショップや個別報告など、皆さんの積極的なご参加をお待ちします。

学会誌『ロシア語ロシア文学研究』は、坂庭淳史さんを委員長とする学会誌編集委員会のご尽力で、質量ともに優れた論文・書評等を掲載し、読み応えのある 55 号が刊行されました。現在、平松潤奈さんを委員長とする新委員会によって、すでに次号の編集作業が進捗しているとうかがっています。学会誌の更なる発展を楽しみにしたいと思います。

これらの他にも、2023 年 6 月 18 日には、2022 年 1 月に逝去された三谷恵子前会長追悼シンポジウム「スラヴ人文学の今日と未来」が東京大学本郷キャンパスにおいてハイブリッド形式で開催されました。日本スラヴ学研究会、東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室との共催で行われたこのシンポジウムでは、スラヴ諸語、文献学、東欧文学の若手中堅の研究者が登壇され、三谷先生の優れた業績を振り返るのみならず、これらの分野における現在の達成と今後の展望をめぐって活発な議論がおこなわれました。その模様は、学会広報委員会の公式 YouTube チャンネル(<https://www.youtube.com/watch?v=2eHBf8wWRcY>)からご視聴いただけます。

2024 年 1 月 27 日には、若手企画賞受賞ワークショップ「〈暴力〉から問う：19-20 世紀ロシア文化における暴力表象の横断的検討」が北海道大学においてハイブリッド形式で開催され、現代の状況を見据えつつ、過去を再検討する充実した報告と議論が展開しました。詳細については、学会 HP に後日掲載予定の、企画

代表の田村太さん文責の実施報告書をご覧ください。

また、2022年度日本学術振興会賞を受賞された古宮路子さんと同育志賞を受賞された畔柳千明さんの公開講演録画の配信を、鴻野わか菜さんを委員長とする社会連携委員会のご尽力により、三谷前会長の発案で始められた「日本ロシア文学会主催公開シンポジウム」の一環として、学会広報委員会の公式 YouTube チャンネル (<https://youtu.be/iP2paDX0h6k>)で2024年3月10日より開始しています。ロシア軍のウクライナ侵攻による衝撃と動揺の中でも、ロシアとその隣接領域を主たる対象とする人文学の研究が力強く確実に進められていることを示すお二人の清新なご講演を、ぜひ視聴していただければと思います。

日本ロシア文学会では、これからも研究その他の成果の発信に努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

なお、日本ロシア文学会理事会では本会会則のうち、国民文学の理念が主流だった時代の記載を、今日の潮流を反映した表現に改訂する作業を始めています。また、本学会創立75周年を迎える2025年に向けて、記念となるような企画の検討にも着手しています。この他にも、学会員の皆さんが関与した書籍・雑誌や諸般の企画についての情報を、学会HPや学会員MLにより、引き続き積極的に発信していきたいと考えています。また、昨年度末より装備された学会HP会員検索機能は、個人情報保護に鑑みて発行を停止した学会員名簿に代わるものですので、どうぞご活用ください。

会員の皆さまには、いっそうのご理解とご協力を、またご意見ご提言を積極的にお寄せいただきたく、心よりお願い申し上げます。

2. 2023年度第73回総会報告

第73回定例総会・研究発表会は、2023年10月21日（土）、22日（日）の両日、富山大学で開催されました。10月21日（土）午後開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- **開会の辞** 会長：中村唯史（以下敬称略）
中村唯史会長が開会の辞を述べた。
- **日本ロシア文学会賞表彰** 【論文部門】マリア・プロホロワ
【著書部門】鈴木佑也
学会賞選考委員会八木君人委員長による選考結果の報告が行われ、中村会長からマリア・プロホロワ、鈴木佑也両氏に表彰状および副賞が授与された。
- **日本ロシア文学会大賞表彰** 上田洋子
大賞選考委員会野中進委員長による選考結果の報告が行われ、中村会長から上田洋子氏に表彰状および副賞が授与された。
- **日本ロシア文学会若手ワークショップ企画賞表彰**
「〈暴力〉から問う——19-20世紀ロシア文化における暴力表象の横断的検討」（代表者：田村太）
野中進副会長による選考結果の報告が行われ、中村会長から田村太氏に表彰状が授与された。
- **議長団選出** 【候補】阿出川修嘉（関東東北）、小椋彩（北海道）、斎藤慶子（関西中部）
該当支部からの推薦に基づき、三名の議長候補が示され、全会一致で承認された。

● 報告事項

1. 事務局報告

- ・ 秋山真一庶務会計から、以下の報告が行われた。
- ・ 配布資料1に基づき、会員異動（2022年10月～2023年10月）について、以下の報告が行われた（以下敬称略・五十音順）。

○逝去（正会員4名）

井上徹（いのうえ・とおる）（関東東北）
浦雅春（うら・まさはる）（関東東北）
田辺三千広（たなべ・みちひろ）（関西中部）
徳永晴美（とくなが・はるみ）（関東東北）
ご冥福をお祈りいたします

○退会（正会員5名）

青山太郎（あおやま・たろう）（関東東北）
西中村浩（にしなかむら・ひろし）（関東東北）
ブリノフ・エフゲニー（ぶりのふ・えふげにー）（関東東北）
メーリニコワ・イリーナ（めーりにこわ・いりーな）（関西中部）
山下万里子（やました・まりこ）（関東東北）

○入会（正会員7名）

清水真伍（しみず・しんご）（関東東北）ドストエフスキー・美学
推薦者：楯岡求美・古宮路子
大谷梨乃（おおたに・りの）（北海道）サハリン・日本人表象
推薦者：大西郁夫・小椋彩
町田航大（まちだ・こうだい）（関東東北）ドストエフスキー・19世紀ロシア文学
推薦者：源貴志・坂庭淳史
西角美咲（にしかど・みさき）（関東東北）旅・人間
推薦者：三浦清美・坂庭淳史
松元晶（まつもと・あきら）（北海道）ソ連映画・表象
推薦者：安達大輔・野町素己
中岩諒（なかいわ・りょう）（関東東北）統語論・比較級
推薦者：匹田剛・恩田義徳
横江智哉（よこえ・ともや）（関西中部）トゥルゲーネフ・カザフスタン
推薦者：中村唯史・楯岡求美

○入会希望（学生会員1名）

栗原かおり（くりはら・かおり）（関東東北）ツヴェターエフ・20世紀詩
推薦者：坂庭淳史・八木君人

- ・ 実装予定のシクミネットの会員検索機能について、デモンストレーション画面を使いながら、本機能によるメール送信、会員のキーワード検索、個人情報の公開/非公開の設定などの方法について報告が

行われた。

2. 各種委員会報告

【広報委員会】 本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 前回 2022 年の総会から、HP の更新 120 件（前年 186 件）、ML の配信 131 件（前年 145 件）であった。
- ・ イベント・新刊情報があれば、積極的に広報委員会まで連絡してほしいとのアナウンスがあった。

【大賞選考委員会】 野中委員長から、以下の報告があった。

- ・ 上田洋子氏を 2023 年の大賞受賞者として決定し、7 月の理事会で承認され、本日（10 月 21 日）、受賞記念講演が開催されたとの報告が行われた。
- ・ 大賞推薦の書式が簡略化されたことが報告された上で、11 月に開始される次年度の受付にむけて、推薦が呼びかけられた。

3. 中村会長から、ロシア語履修者アンケートについて以下の報告があった。

- ・ 昨年に続き今年も実施したこと。
- ・ 本アンケートの実施の際に趣旨や、データの開示方法について、事前に執行部から十分な説明がなかったことに対し会員から批判があったことが報告され、これに対し中村会長から、昨年度は緊急的な措置であり、やむを得なかったと考えるが、今年度も機械的にそれを反復したことについての反省が述べられた。
- ・ アンケートは、来年度以降は行わない予定であるが、今後状況の変化があった場合には再開する可能性があるとして述べられた。

● 審議事項

1. 2022/2023 会計年度決算および会計監査報告

- ・ 秋山庶務会計から、配布資料 2 に基づき、2022/2023 会計年度決算について諮られた。村田真一監事から、同監事及び寒河江光徳監事による会計監査について報告が行われた。以上が承認された。

2. 2023/2024 会計年度予算案

- ・ 秋山庶務会計から、配布資料 3 に基づき、2023/2024 会計年度予算案について諮られ、これが承認された。

3. 声明の発出に関する内規について

- ・ 中村会長から、既に（1）ロシア軍のウクライナ侵攻と（2）日本学術会議の在り方について日本ロシア文学会から声明を発出しているが、これまでは声明発出に関する規定が存在しなかったこと、及び今後 **も** 新たな声明発出が必要な事態が起こりうるということが述べられた上で、配布資料 4 に基づき、声明発出に関する内規の制定について諮られ、これが承認された。

4. 2024 年度全国大会について

- ・ 中村会長から、来年 2024 年度の大会について、創価大学に開催校をお引き受けいただくことについて諮られ、これが承認された。
- ・ 大会実行委員長の寒河江光徳氏から挨拶があった。日程は、可能性を検討中のプレシンポジウムも含めて、10 月 25 日（金）～10 月 27 日（日）を予定していることも合わせて報告された。

5. 2023/24 年度役員・理事・各種委員一覧
 - ・ 中村会長から、配布資料 5 に基づき、2023/2024 年度役員・理事・各種委員一覧について諮られ、これが承認された。
- 議長団解任・閉会の辞
議員団が解任され、野中副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

3. 10 月・12 月理事会関連事項

10 月理事会は 10 月 21 日（土）に対面で開催され、12 月理事会は 12 月 17 日（日）に対面とオンライン（zoom）を併用したハイブリッド形式で開催された。主な報告事項および審議事項は以下のとおり。

- 10 月理事会（前節の総会報告を参照）
- 12 月理事会
日 時：2022 年 12 月 17 日（土）14:00-16:30
開催方式：東京大学（本郷キャンパス）法文 2 号館教員談話室/zoom（ハイブリッド開催）
（以下敬称略）
議事に先立ち中村唯史会長から、配付資料に基づき、前回理事会と前回総会（2023 年 10 月）議事録の確認が行われた。
- 承認事項
 - ・ 事務局の秋山真一庶務会計から、配布資料 3 に基づき、会員異動（2023 年 10 月～2023 年 12 月）について以下の報告が行われた。（敬称略・五十音順）。
 - ▶ 退会
中村泰朗（なかむら・よしあきら）（関東東北）
 - ▶ 入会希望（一般会員）
三島朗萬（みしま・ろうまん）（関東東北）
クラシナ・オリガ（くらしな・おりが）（関西中部）
 - ▶ 入会希望（学生会員）
岡野優那（おかの・ゆうな）（関西中部）

また、監事の源貴志氏のご逝去が、口頭で報告された。

- 報告事項
 1. 事務局報告
 - ・ 秋山庶務会計から、配布資料 4 に基づき、学会財政レポートが行われた。
 - ・ 秋山庶務会計から、配布資料 5 に基づき、シクミネット会員検索機能が実装済であること、並びに会員の研究キーワードの登録方法と注意点について報告が行われた。またシクミネット未登録の会員への初回登録が呼びかけられた。
 2. 若手ワークショップ企画賞の次期募集について

- ・ 坂庭淳史副会長から、配布資料 6 に基づき、2024 年度の若手ワークショップ企画賞の募集がすでに開始されていることが報告された。
3. 2024 年度日本ロシア文学会学会大賞候補者推薦について
- ・ 大賞選考委員会の野中進委員長から、配布資料 7 に基づき、来年度の学会大賞候補者の推薦がすでに開始されていることが報告され、積極的な推薦が呼びかけられた。また推薦書類が簡便化されていることが併せて報告された。
4. 各種委員会報告
- 【学会誌編集委員会】**
- ・ 平松潤奈委員長から、配布資料 8 に基づき、学誌第 56 号の進捗状況と今後の予定が報告され、また会誌第 55 号が 12 月 20 日に J-STAGE 上に公開予定であるとの報告が行われた。
 - ・ 平松委員長から、10 月の全国大会で国際枠で発表したかたが、その後の学会側とのやりとりがスムーズにいかなかったために学会誌投稿エントリーが締切に間に合わず、委員会で審議しエントリーを承認したことが報告された。また、今回のような国際枠で学会発表し、その後会誌への投稿を希望する人とのやりとりを担当する部署が不明瞭になっている問題点が指摘された。これに対し、中村会長から、コロナ禍の期間にさまざまなノウハウが途絶えてしまっている点が問題点として述べられ、今後国際枠の参加者に対しては、研究発表会・学会誌の両方とも、それぞれ大会組織委員会・大会実行委員会・学会誌編集委員会との連携の下、基本的に国際交流委員会が連絡・対応していくという方針が述べられ、これが確認された。
- 【広報委員会】**
- ・ 本田晃子委員長から、HP とメーリングリストの稼働について以下の報告がなされた。
 - ・ 前回 2022 年 12 月理事会～本日までの集計：HP 更新数 116 件（前年 193 件）、ML 数 123 件（151 件）
 - ・ また HP の使い勝手や ML 配信で問題点があれば随時報告してほしいと呼びかけられた。
- 【学会賞選考委員会】**
- ・ 安達大輔委員長から 2024 年度の学会賞推薦の募集が、12 月 1 日から開始されていること、また今後のスケジュールについて報告された。また今回から、署名を委員長名ではなく委員会名に変更したことが報告された。
5. 2023/24 年役員・委員について
- 中村会長から、配布資料 9 に基づき 2023/24 年役員・委員等について報告が行われた。また欠席した大会実行委員会の寒河江光徳委員長に代わって、事務局の北井聡子書記より、大会実行委員会に新たに二宮由美氏が加えることが諮られ、承認された。国際交流委員会の武田昭文委員長より、同委員会のヴァレリー・グレチュコ委員の名前の表記揺れについて（グレチコ・ワレリー等）指摘があり、今後は本人の希望に従い「ヴァレリー・グレチュコ」に統一することが提案され、これが確認された。
6. その他
- 中村会長より、社会連携委員会が進めている、会員の古宮路子氏の日本学術振興会賞受賞と畔柳千明氏の育志賞受賞を記念した講演動画の公開計画について以下の報告があった：1 月末に両氏から講演動画を提供していただき、2 月中旬に主旨説明動画の撮影を終了させ、その後、社会連携委員で編集作業を

したうえで、2月20日前後に学会 YouTube アカウントにて動画公開予定。

● 審議事項

1. 2023年度第73回大会組織実行委員会の総括が、野中進委員長より、資料10に基づき行われ、承認された。また中村会長より、コロナ禍の影響で発表の数が減っていること、とくに今回はワークショップの開催が一件だけだったことが指摘され、今後の増加を期待しつつ、当面注視していく旨が呼びかけられた。
2. 2023年度第73回大会実行委員会の総括/会計報告が武田昭文委員長より、資料11に基づき行われた。
 - ・ 中村会長より、大賞受賞記念講演と学会賞の賞状と花束の準備を担当する部署について確認があり、武田委員長から、賞状の準備と支払いについては大賞・学会賞選考委員会がそれぞれ行い、そして花束については実行委員会が準備と支払いを行ったことが確認された。また副賞の支払いについては、事務局の秋山庶務会計が振込を行ったことが報告された。
 - ・ 中村会長から、懇親会補助金は、学会会計とは別に管理されているものであり、開催校から開催校へ直接受け渡しが行われることが述べられ、これが確認された。
3. 2024年度第74回大会について
 - ・ 中村会長から、第73回大会実行委員会の武田委員長に対し、次年度の委員会への引き継ぎのため、工程表を完成させるよう依頼があり、これが確認された。
 - ・ 次年度大会組織委員会の前田和泉委員長より、大会組織委員のメンバーが決定されたこと、会場視察を組織委員会委員長と実行委員会でき来年夏頃に実施予定であること、そして4月に組織委員会・実行委員会での合同委員会を開催予定であることが報告され、承認された。
 - ・ 次年度実行委員会の寒河江委員長の代理で、実行委員会委員の北井聡子氏から、資料12に基づき、プレシンポジウム・会場の施設について報告があり、承認された。
 - ・ また北井氏から、託児サービスの運営について問題提起がなされた。これについて、中村会長から、助成金の利用者が、各自で託児サービスを業者に依頼する形態が望ましい（学会側は、保育士を手配しない）との意見が述べられた。次に、前田大会組織委員長から、実施する場合、今後検討すべき項目として、会場内に、子供と過ごせる場所を確保するかどうか、助成金の金額をいくらし、どの予算から捻出するか、そして助成金の適応範囲をどこまでにするか（発表者のみに限定するか、司会、聴講者も含むか）等が挙げられ、また会場に子供が待機できる場所を確保する場合は、「事故があった際、学会が責任を負えない」ということを明記する必要があるとの意見が述べられた。助成金の予算について、中村会長から、旅費助成と同じく、特別会計から捻出することが提案された。以上のような意見を踏まえ、中村会長から、次年度の大会組織委員会・実行委員会と執行部で、エントリーの開始前に助成金補助に関する規約の原案を作成し、メール審議の形で審議していくことが諮られ、承認された。
4. 学会誌の投稿規定について
学会誌編集委員会の平松委員長から、資料8に基づき、会誌規定に「投稿論文は、過去に印刷されたものの、投稿の時点で他所で印刷される見込みのもの、審査中のものであってはならない」という趣旨の文言を追加することが提案された。岩本和久氏から、近年論文発表の場は、印刷されたものに限らないことから（オンライン掲載も有りうる）、規約の文言について「印刷されたもの」ではなく「発表されたもの」等にすべきではないか、という意見が述べられた。また坂庭副会長から、プレプリントサーバーに公開された論文の取り扱いについても検討すべきではないか、との意見が述べられた。以上の意見を踏まえ、この件について、中村会長から、10月の総会で承認を目指し継続審議していくことが諮られ、承

認された。

5. 国際交流助成について

武田委員長より、次期も助成を行うことが報告され、承認された。

6. 会則規定等の改定について

- ・ 中村会長より、資料 13 に基づき、会則規定等の改定について以下の二点について提案があった。

一点目：各種委員会の選出方法を、現状に合わせ以下のように変更することが諮られ、承認された。

(旧) 委員会は、委員長および若干名の委員によって構成する。委員は、理事会が委嘱する。委員長は委員の互選とする。委員長および委員の任期は 2 年とする。

(新) 委員会は、委員長および若干名の委員によって構成する。委員長および委員は理事会が委嘱する。任期はともに 2 年とし、再任を妨げない。

二点目：現行の日本ロシア文学会の会則には、「国民国家」「国民文学」が前提であった時代のままの文言があり、これをより今日の思潮や状況に合わせて、以下のように改定することが提案された。さらに、改定された会則の規定に基づき、各種内規の項目にも変更を反映していくことが提案された。

ロシア文学会会則

・ 第 2 条

(旧) 本会はロシア語・ロシア文学の研究および普及によって、日本および世界の文化の健全な発展に貢献することを目的とする。

(新) 本会はロシア語・文学・文化等をめぐる研究、それらと関連のある研究とその発信・応用によって、日本および世界の文化の発展に寄与することを目的とする。

・ 第 4 条

(旧) 本会はロシア語・ロシア文学の研究と普及に従事する正会員（一般・学生）および本会の趣旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

(新) 本会はロシア語・文学・文化の研究、それらと関連のある研究・発信に従事する正会員（一般・学生）および本会の趣旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

* 下線部の案として他に以下のもの等。以下、内規の関連箇所についても、赤字箇所は、会則 2 条・4 条に対応した表現に変更の要。

「ロシア語圏の言語・文学・文化をめぐる研究、およびそれらと関連のある研究」

「ロシア語・ロシア文学・ロシア文化をめぐる研究、およびそれらと関連のある研究」

「ロシアとその関連域の言語・文学・文化等、およびそれらと関わりのある研究」

*** 参考 Устав Японской ассоциации русистов**

2

Ассоциация ставит своей целью способствовать плодотворному развитию японской и мировой культуры путем изучения и распространения русского языка и литературы.

- ・ この提案に対し、以下のような意見が述べられた。

- 改定案の「ロシア語・文学・文化等をめぐる研究」（内規の方は、提案の1つ目「「ロシア語圏の言語・文学・文化をめぐる研究、およびそれらと関連のある研究」という箇所について、ロシアという言葉が、文学・文化にもかかるのかどうか（つまりロシア文学、ロシア文化を意味するのかしないのか）について、曖昧な解釈が生まれるのではないかと。またロシア文学会は、ロシアに視点をおくべきであり、内規の二番目の改定案である「ロシア語・ロシア文学・ロシア文化をめぐる研究、およびそれらと関連のある研究」が、良いように思う。
- 改定案の目的に即すと、「ロシア文学会」という名前自体も変更しなくてはならないのではないかと、という懸念がある。ロシア国家の中で育まれた「ロシア文学」は事実として存在してきた。そういった国民文学に対する批判的な視点は持ちつつも、「ロシア文学」を解体する方向に進むのではなく、「ロシア文学」という枠組みは残す方向で、改定を進めるべきではないかと。また、こういった規約は、社会への発信という側面もあり、「普及」という文言は削除すべきではない（同様の理由から以下の「日本」という文言を削除する案にも反対する）。
- 内規案2つ目の「ロシア語・ロシア文学・ロシア文化をめぐる研究、およびそれらと関連のある研究」は、文言がくどいので、ロシア文化は削除してはどうか。
- 「ロシア語圏」という表現は、帝国主義的なニュアンスが加わるので避けたほうがいいのではないかと（フランス関係のアカデミアでは、フランス語圏という表現は、同様の理由から避けられている）。
- 改定の方向性については賛成であるが、今後、学会誌のタイトルの変更も視野に入れているか（例：『ロシア人文研究』や『ロシア学研究』などへの変更）。文言にある「日本および世界の文化」という箇所の日本は必要ではない方に思う（世界に日本は含まれているのではないかと）。
- 「ロシア語・ロシア文学・ロシア文化をめぐる研究、およびそれらと関連のある研究」という改定案は、すこしくどいので、「ロシアの言語・文学・文化、およびそれらと関連のある研究」にすればいいのではないかと。

- ・ 以上の意見を踏まえ、中村会長から、本件については今後継続審議していくことが諮られ、承認された。

7. 75周年記念イベントについて

- ・ 坂庭副会長から、ロシア文学会50周年のときに「日本人とロシア語」という主題で本を出版したことが言及された上で、2025年の75周年でも、学会の世代間のつながりを構築し、研究の系譜を残していくことを目的とした企画を行ってはどうかと、という提案があった。またベテラン会員によるかつての学会のお話を冊子としてまとめることを想定しているが、具体案については今後、会員の意見を伺いながら、決めていきたいと述べられた。
- ・ これに対し、以下のような意見が述べられた。
[中村会長] 出版するならば、予算の都合もあるため『ロシア語ロシア文学研究』の別冊の形でよいのではないかと。[岩本和久氏と野中進氏] 上の世代の方のお話を残しておくべきであり賛成。[秋山真一氏] 75周年へ向けた1年間の間に、各支部でもベテランの会員の話聞くイベントを開催してはどうかと。またAI文字起こしを活用すると簡単に記録が文字化できる。
- ・ 上記の意見を踏まえ、中村会長から、今後ワーキングを立ち上げることに、執行部事務局で継続審議を続けていくこと、また7月の理事会で具体的な提案をすることについて諮られ、承認された。

8. その他

- ・ 中村会長から、会長による業務遂行が困難になった場合の代行を前田副会長に担ってもらうことが諮られ、承認された。

- ・ 中村会長から、現会長の任期終了までの期間において、会員のご逝去があった時の対応について、「ご遺族の了解が得られれば、学会 ML で訃報を流す」という原則、並びに追悼文については、執行部から会委員に基本的には依頼しないこと、ただし会員から追悼文を書きたいという希望があれば、文面を確認したうえで、学会 HP に掲載するという方針が述べられた。これに対して、岩本和久氏から、追悼文については、学会への貢献が大きい役職経験者でも、世代がかなり上の場合、執行部から指名しないと書いてもらえない場合もありうる。よって一律に依頼しないことを決めてしまわないほうがよいのではないか、という意見が述べられた。
- ・ 上記の意見を受け、中村会長から、遺族の許可があった場合には訃報を ML で配信することについては原則とすること、追悼文については、その都度執行部・事務局で審議していくことが諮られ、承認された。

4. 会員異動（2023年1－12月）

○逝去 ご冥福をお祈りいたします。

井上徹（いのうえ・とおる）（関東東北）

浦雅春（うら・まさはる）（関東東北）

田辺三千広（たなべ・みちひろ）（関西中部）

徳永晴美（とくなが・はるみ）（関東東北）

○退会

青山太郎（あおやま・たろう）（関東東北）

中村泰朗（なかむら・よしあきら）（関東東北）

西中村浩（にしなかむら・ひろし）（関東東北）

ブリノフ・エフゲニー（ぶりのふ・えふげにー）（関東東北）

メーリニコワ・イリーナ（めーりにこわ・いりーな）（関西中部）

山下万里子（やました・まりこ）（関東東北）

○入会（正会員）

大谷梨乃（おおたに・りの）（北海道）

クラシナ・オリガ（くらしな・おりが）（関西中部）

清水真伍（しみず・しんご）（関東東北）

中岩諒（なかいわ・りょう）（関東東北）

西角美咲（にしかど・みさき）（関東東北）

町田航大（まちだ・こうだい）（関東東北）

松元晶（まつもと・あきら）（北海道）

三島朗萬（みしま・ろうまん）（関東東北）

横江智哉（よこえ・ともや）（関西中部）

○入会（学生会員）

岡野優那（おかの・ゆうな）（関西中部）

栗原かおり（くりはら・かおり）（関東東北）

5. 新役員・委員（敬称略）

会長	中村唯史（2021年全国大会 – 2025年全国大会）
副会長	坂庭淳史、前田和泉（2023年全国大会 – 2025年全国大会）
事務局	秋山真一（2020年全国大会 – 2024年全国大会） 北井聡子（2022年全国大会 – 2026年全国大会）

理事（2023年全国大会～2025年全国大会）

北海道支部	岩原宏子（支部長）、岩本和久〔事務局長：菅井健太〕
関東東北支部	楯岡求美（支部長）、秋山真一、阿出川修嘉、臼山利信、大森雅子（事務局長）、貝澤哉、熊野谷葉子、越野剛、古宮路子、坂庭淳史、乗松亨平、番場俊、前田和泉、松下隆志、村田真一
関西中部支部	金子百合子（支部長）、北井聡子、木寺律子、齋須直人、高橋健一郎、本田晃子、〔事務局長：藤原潤子〕
西日本支部	佐藤正則（支部長・事務局長）
顧問	井桁貞義、諫早勇一、佐藤純一、沼野充義、望月哲男
監事	村田真一（2021年全国大会 – 2024年全国大会）、源貴志（2023年全国大会 – 2025年全国大会）
JCREES 幹事	中村唯史、前田和泉

各種委員会（2023年全国大会～2025年全国大会：*は2023年大会～2024年大会）

学会誌編集委員会	平松潤奈（委員長）、阿出川修嘉、大野斉子、河村彩、北見諭、坂庭淳史、菅井健太、高田映介、高橋知之、松下隆志、山路明日太
学会賞選考委員会	安達大輔（委員長）、貝澤哉、加藤百合、服部文昭、番場俊、藤原潤子
国際交流委員会	武田昭文（委員長）、ヴァレリー・グレチュコ、古宮路子、齋須直人、高橋沙奈美、楯岡求美
広報委員会	本田晃子（委員長）、梅津紀雄、梶山祐治、神竹喜重子、古賀義顕、宮内拓也
社会連携委員会	鴻野わか菜（委員長）、小椋彩、高橋健一郎、堤正典、鳥山祐介、松下隆志
倫理委員会	佐藤千登勢（委員長）、大西郁夫、コベルニック・ナディア、佐藤正則、安野直

大賞選考委員会	野中進（委員長）、安達大輔、鴻野わか菜、坂庭淳史、佐藤千登勢、武田昭文、中村唯史、平松潤奈、本田晃子、前田和泉
2024年大会組織委員会*	前田和泉（委員長）、金子百合子、神岡理恵子、寒河江光徳、佐藤正則、武田昭文
2024年大会実行委員会*	寒河江光徳（委員長）、江口満、覚張シルビア、北井聡子、草加千鶴、古宮路子、中堀正洋、二宮由紀

6. その他

1. 2024年度全国大会は10月26～27日に創価大学にて開催されます（25日にプレシンポを予定）。申請エントリー受付開始は5月初旬の予定です。詳細は後日学会HPやMLでご案内します。

7. 事務局からのアナウンス

- 2021-22年度まで、事務局より会費の滞納のある方に会費の督促を行っていましたが、2022年9月のシクミネット導入後はシクミネットへの登録依頼で会費の督促に代えさせていただきます。年度が間もなく切り替わりますので、会員ステータスが変化する予定のある方（例：学生会員 → 一般会員）は早めに事務局（庶務会計）までお知らせください。
- 住所等連絡先の変更は、シクミネット上での手続きだけでなく、事務局宛にも必ずご連絡ください。特に支部変更を伴う場合は、変更前と変更後の支部事務局にも必ずご連絡をお願いいたします。
- 郵便振替での会費納入は現在も可能ですが、シクミネットへの決済情報の反映には大変時間がかかります。納入からかなりの時間が経過した後、シクミネットから決済通知の自動送信メールが送られることとなりますが、何卒ご了承ください。
- シクミネットでの会費納入および決済情報に関してご不明な点がある場合には事務局（庶務会計）までご連絡ください。

はじめてシクミネットにアクセスする方へ

- シクミネットは2022年9月1日より日本ロシア文学会で採用した会員管理システムです。学会ホームページ <https://yaar.jpn.org> の上部左端にある「会員ページへのログイン」からシクミネットに入り、マイページから会費の決済方法を選択してください。ログインに必要なアカウントIDは学会に登録されているご自身のメールアドレス、パスワードはwsx27mrk58となっています。初回アクセス後、パスワードは各自で変更をお願いいたします。
- 3年度分以上の会費滞納がある会員については、会員管理システムの都合上、マイページへのアクセス後に事務局の承認が必要となっております。未納分の決済方法などについて事務局（庶務会計）までご連絡ください。
- 初回アクセス時に会費の納入方法を選択していただきますが、クレジットカード（継続決済）または口座振替（継続決済）を選択しますと、手続き後すぐに会費が決済されます。即時決済を行いたくない場合は、ひとまずコンビニ決済またはPay-easy決済を指定し、後ほど決済方法をマイページから変更してください。

日本ロシア文学会会報 第53号 (2024年3月15日発行)

発行人 中村唯史 編集人 日本ロシア文学会事務局

〔書記〕 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8

大阪大学人文学研究科 北井聡子研究室内

〔庶務会計〕 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

上智大学外国語学部 秋山真一研究室内

E-mail : yaar@yaar.jp (共通)